

みんなで弾ける！アニメーション楽譜を活用したギター合奏

実践の概要

ギター演奏のための視覚支援教材として、アニメーション楽譜を作成した。生徒たちは、iPadで動く楽譜を見ながら演奏することで、音を鳴らす正しいタイミングをつかむことができ、仲間とともに絆を深めながら合奏に取り組めるようになった。この教材を活用し、すながわ高等支援学校・泉南支援学校の交流授業を行った。

1. 目的・目標

大阪府立すながわ高等支援学校の音楽科の授業では平成30年度からギターの学習に取り組んできた。意欲的な生徒がいる一方、中学校の音楽科の授業で「楽譜が読めない、周りに比べてできない」などの挫折を経験した生徒は楽器の演奏に不安感を覚えることが多い。平成30年度の実践として、楽器演奏に対するネガティブな印象を少しでも和らげるために、カラーシールを貼った紙の楽譜で視覚支援を行った。楽譜に表記されている音符とギターの指板を押さえる場所とを一致させられるよう、3種類の形、7色のシールを用意し、ギターの指板(写真1)と紙の楽譜(写真2)それぞれに貼った。



写真1 ギターの指板



写真2 紙の楽譜

多くの生徒が紙の楽譜に貼られているシールを見て、ギターの指板から同じ形・色のシールを探すことで、正しい音を演奏することができ

た。一定の成果が得られたものの、紙の楽譜では音を鳴らすタイミングが分からず合奏が難しい、という課題も見えてきた。教員が手を叩いて演奏の速度を指示しても、ある生徒は速く、ある生徒は遅く演奏するというような状況で、うまく合わせることができないのである。障がい特性から周りに合わせることが難しい生徒も多いが、そんな生徒たちにこそ仲間と協力して合奏することの良さや楽しさを感じて欲しい。このような思いから、ICTを活用し課題を克服しようと考えた。

2. 実践内容

2.1 アニメーション楽譜の作成

平成31年度から実施している本実践では、紙の楽譜で行った視覚支援をさらに発展させ、音を鳴らすタイミングを分かりやすく示すために、まずアニメーション楽譜の作成を試みた。作成に当たっては、プレゼンテーションソフトkeynoteのアニメーション機能を活用した。写真3は、作成したアニメーション楽譜の画面である。横線はギターの弦を、数字と図形はギターの指板を押さえる位置を表している。この楽譜上を紫色の●が音楽に合わせて放物線を描きながら弾むように動き、音を鳴らす正確なタイミングを示す。



写真3 アニメーション楽譜

「大きな古時計」「きらきら星」「星に願いを」「グリーンスリーブス」の4曲をそれぞれ2～3種の難易度別に分けて編曲し、計11種類のアニメーション楽譜を作成した。

2.2 アニメーション楽譜の活用

次に、この教材を実際の授業で活用した。生徒は1人1台iPadを机に置き、自分の演奏技能に合ったレベルのアニメーション楽譜を選択し、練習に取り組んだ。写真4は、レベル4の「大きな古時計ベース」を練習した生徒とレベル10の「大きな古時計メロディ」を練習した生徒が一緒に合奏している様子である。同じ曲に取り組んでいる生徒同士で声を掛け合い、「せーの」の合図でiPadの画面をタップし合奏を始めていた。

生徒たちはアニメーション楽譜を使った演奏に少しずつ慣れていき、タイミング良く正しい音を鳴らせるようになった。実践前に楽器演奏に不安があった生徒からも、「ゲームをクリアしていく感覚で楽しくできた」「動く楽譜が分かりやすく自分で練習を進められるから、自信をもって演奏することができた」などの声が聞かれた。教員は、生徒へ音を鳴らすタイミングを教える時間が減ったことで、つまづいている生徒への個別指導により多くの時間をかけたり、進んでいる生徒へ音楽性が高い助言を行ったりすることができるようになった。また、普段の学校生活で会話することが少ない生徒たちも、同じ曲に挑戦していることをきっかけとして、対話を重ねながら協力して合奏に取り組む姿が見られた。



写真4 アニメーション楽譜を使って合奏をする生徒

2.3 交流授業の実施

令和2年12月18日、大阪府立すながわ高等支援学校と大阪府立泉南支援学校とでアニメーション楽譜を活用したギター合奏の交流授業を行った(写真5)。当初、公開授業として行う予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響から、外部非公開での実施となった。2校は併設校として普段から同じ校舎で授業を行っているが、生徒間の交流はほとんどないため、授業前の生徒は非常に緊張している様子であった。それぞれの自己紹介の後、ウォーミングアップとして「ドレミの歌で音階練習」を行った。普通→速め→高速→超高速と速度を上げていく中で、生徒たちの緊張も少しずつほぐれていき、笑顔も見られるようになった。3つのグループに分かれ練習を行った後、合奏の発表を行った。音を鳴らすタイミングを合わせようと、ホワイトボードに投影されるアニメーション楽譜を真剣な表情で見つめる生徒たちの表情が印象的で、熱がこもった良い合奏となった。終了後には、両校の生徒たちから「もっとやりたかった」「楽しかった」といった声が聞かれた。生徒同士のコミュニケーションの場面設定や教員間の連携についてなど、課題が多く上がったが、今後に向けた大きな一歩を踏み出せたと感じている。交流が難しい時期ではあるが、工夫を重ねながら今後も継続して実施していきたい。



写真5 泉南支援学校・すながわ高等支援学校 交流授業の様子

2.4 アニメーション楽譜の公開

YouTube にチャンネルを開設し、アニメーション楽譜の動画を公開している（写真6）。動画概要欄には、keynote のアニメーション楽譜ダウンロード用 URL（図1）およびギターの指板に貼るシールのデータを掲載している。



写真6 YouTube チャンネル



図1 keynote データ
「大きな古時計」

keynote は Apple 社が開発しており、どの iPad にも無償で提供されている。特別なものではなく、一般的な純正のソフトを活用しているため、本実践は iPad があれば容易に再現することができる。また、他のタブレット端末でも動画をダウンロードすることで利用可能となる。GIGA スクール構想が進展し 1 人 1 台端末の導入が本格スタートする中で、特別支援学校はもちろん、中学校や高等学校での授業の導入教材としても有効活用できると考えられる。

3. 今後に向けて

一般的な五線譜は、非常に便利なツールである一方で、読み方が難しく、楽器演奏から距離を置いてしまう原因にもなる。今回の実践を通して、ICT にはそのような壁を乗り越える可能性があることを実感できた。特にアニメーション楽譜は、見るだけで音を鳴らすタイミングが分かるユニバーサルな教材であるため、障がいがある子どもとない子どもとの合奏にも応用できると考えられる。今後も、ICT を活用した音楽科での実践を積み重ねることで、障がいの種類や有無を超えた「ともに学ぶ教育」を推し進めていきたい。

令和 2 年 12 月 18 日

泉南支援学校・すながわ高等支援学校 交流授業略案

1、ねらい：泉南支援学校とすながわ高等支援学校の生徒が音楽の授業で直接交流を行う

ことで、相互理解を深める。

2、日 時：12 月 18 日（金）13:20～14:10

（泉南支援学校の授業時間は 5,6 限 13:10～14:15）

3、場 所：山館 4F アクティブラーニングルーム

4、参加生徒：泉南支援学校高等部 1 年生(13 名)、すながわ高等支援学校 1 年 1 組（10 名）

5、指導教員：泉南支援学校(3 名)、すながわ高等支援学校(3 名)

6、本時の展開：

	時間	活動内容	備考
導入 10 分 (20 分)	13:10	○泉南支援学校授業開始 ○本時の実施内容の説明	・入室時の手指消毒
	13:20	○すながわ高等支援学校の生徒入室 ○初めのあいさつ、自己紹介 ○実施内容の説明、楽器準備	・入室時の手指消毒
展開 30 分	13:30	○本時の目標の説明 目標「みんなでタイミングを合わせて演奏しよう」 ○ギターウォーミングアップ ドレミの歌で音階練習をする。	・一人ひとりが音を鳴らすタイミングを意識するよう促す。
	13:35	○ギターグループ練習 グループごとに練習を行う。 配置図①（きらきら星） 配置図②（大きな古時計） 配置図③（星に願いを）	・机イスの移動はサブの教員が担当する。 ・座席配置を前に投影し、生徒の移動がスムーズになるようにする。
	13:55	○ギター合奏発表 曲ごとに発表を行う。 配置図④（きらきら星） 配置図⑤（大きな古時計） 配置図⑥（星に願いを）	・3 台のプロジェクターでギターのアニメーション楽譜をパートごとに投影する。発表を終えた生徒から楽器を片付ける。
ま と め 5 分 (10 分)	14:05	○両校の生徒 1 名ずつが感想を述べる。 ○まとめ ○終わりの挨拶	・感想を述べる生徒を各校 1 名ずつ決め、事前に伝えておく。 ・同じ校舎で学んでいる生徒同士、お互いを理解し、尊重し合おうとする気持ちが大切であることを伝える。
	14:10	○すながわ高等支援学校の生徒退室 机、イス、楽器の片づけ	・退室時の手指消毒
	14:15	○泉南支援学校授業終了	

7、その他

- ・各校の生徒には交流授業の内容を事前に説明しておく。
- ・生徒、また教員の間隔を 1 m 以上あけるよう座席配置に配慮する。
- ・定期的な換気、入退出時の手指消毒を徹底する。